



1月図書館企画

第174回 芥川賞・直木賞 決定!

第174回芥川賞・直木賞（日本文学振興会主催）の選考会が14日、東京・築地の料亭「新喜楽」で開かれ、芥川賞は鳥山まこと氏（33）の「時の家」（群像8月号）と畠山丑雄氏（33）の「叫び」（新潮12月号）、直木賞は嶋津輝氏（56）の「カフェーの帰り道」（東京創元社）に決まった。贈呈式は2月下旬に都内で開かれ、受賞者には正賞の時計と副賞100万円が贈られる。

鳥山氏は兵庫県生まれ。2023年「あるもの」で三田文学新人賞、25年「時の家」で野間文芸新人賞を受賞。芥川賞は初の候補入りで受賞が決まった。建築士でもある鳥山氏は「基礎から積み上げる書き方になった」と回想した。選考委員の平野啓一郎氏によると「スピードが求められる世の中で、ディテールにこだわって描写し尽くした」との評価を得た。

畠山氏は大阪府生まれ。15年「地の底の記憶」でデビュー。芥川賞は初の候補入りでの受賞決定。同市在住の畠山氏は「茨木は縁もゆかりも無かったが、偶然を必然にすることができた。ありがたい嘘をつくることができた」と喜んだ。平野氏は「非常に低俗な話から郷土史にアクセスし、戦中の満州に接続するスケールの大きさ」を高く評した。

嶋津氏は東京都生まれ。16年「姉といもうと」でオール読物新人賞を受賞。直木賞は2回目の候補入りで受賞が決まった。嶋津氏は「書き進めるうちに（登場人物に）幸せになってほしいと思った」と振り返る。選考委員の宮部みゆき氏は「大戦から戦後までの空気感を知っている世代が存命だが、十分に時代の空気を出している」と語った。



鳥山まこと・畠山丑雄・嶋津輝

第174回芥川賞・直木賞 受賞作品の紹介!

鳥山まこと 『時の家』

ここで暮らしていた人々の存在の証を、ただ、描きとめておきたい。青年は描く。その家の床を、柱を、天井を、タイルを、壁を、そこに刻まれた記憶を。目を凝らせば無数の細部が浮かび、手をかざせば塗り重ねられた厚みが胸を突く。幾層にも重なる存在の名残りを愛おしむように編み上げた、一つの平屋を舞台に、3代の住人を家の視点から眺めた小説。

畠山丑雄 『叫び』

主人公は大阪府の茨木市役所に勤める30代の公務員。生活保護で暮らす謎の先生と出会い、市内の遺跡の出土品をモデルにした銅鐸作りを学ぶうちに、地域史にのめり込む。主人公を通して、戦後日本が抱える欺瞞を喝破した。いつしか昭和と令和はつながり、封印されていた声が溢れ出す。大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

嶋津輝 『カフェーの帰り道』

舞台は東京・上野にあるカフェー西行。食堂や喫茶も兼ねた近隣住民の憩いの場には、客をもてなす個性豊かな女給がいた。大正から昭和にかけて、それぞれの道を見つけていく女性たちを描き出した。女給として働いた、百年前のわたしたちの物語。

第174回芥川賞・直木賞候補作品も読んでみよう!

※久栖 博季 『貝殻航路』単行本未発表 坂本 湾
※坂崎かおる 『へび』単行本未発表 『BOX BOX BOX BOX』

住田祐 『白鷺立つ』
大門剛明 『神都の証人』
葉真中顕 『家族』
渡辺優 『女王様の電話番』



「おみくじ付きお楽しみ福袋」の開催！



オススメの本「お楽しみ福袋」貸出します！！

1月19日（月）～ なくなり次第、終了です。

1袋、1冊、20組を用意しています。

ジャンルや作家に好みがあると思いますが、

人にすすめられた本を

読んでみるのも面白いと思います。

図書委員がオススメの本を

厳選して用意しました。

どんな本が入っているかは、

借りてからの楽しみ！ぜひ、図書館へ！！



『ダンス』 竹中優子著

同じ部署の三人が近頃欠勤を繰り返し、その分仕事が増える私はイライラが頂点に。今日こそ彼らに往復ビンタ。もやもやはびこる職場と私を描く。

『それいけ！平安部』 宮島未奈著

ピュア度100%！ ハートフル青春小説！
いみじ！ 新入生、部活つくったってよ！
わたしたちと一緒に平安の心を学びませんか？

『救われてんじゃねえよ』 上村裕香著

誰かの力を借りなきゃ、笑えなかった。主人公の沙智は、難病の母を介護しながら高校に通う17歳。担任の先生におおげさなくらい同情された。そんな彼女を生かしたのは、くだらない奇跡だった。

『業平センパイの読書会』 花形みつる著

ムダに美形と評判の古典研究部、業平部長は部員集めのため読書会を企画したものの、予想外の展開に見舞われる。現代の高校生が、虫めづる姫君などで知られる堤中納言物語のナゾとたくらみを訳し、つつこみ、続きを書きながら読み解いていく新感覚古典小説！



新学期におすすめの新刊！



『団地メシ』 藤野千代著

人生が愛おしくなる団地と散歩の物語！16歳の花は高校になじめず、ずっと休んでいる。そんなある日、母方のおばあちゃんのゆりから、むかし住んでいた、「つつじが丘の団地に行ってみよう」と言われ、団地をのんびりめぐって、おいしい御飯やスイーツを楽しむことに。花&ゆりの年の差コンビが、お互いを思いやりながら、ちいさな幸せをみつけていく。

『事故物件 怖い間取り 4』 松原タニシ著

本当に起きたことだけを静かな筆致で書く怪談と、臨場感あふれる間取り図が「怖すぎる…！」と話題を呼び社会現象に。

『どうせ世界は終わるけど』 結城真一郎著

人類はゆるりと滅亡に向かう？人類滅亡の危機がやってくる。ただし百年後に。世界を駆け巡った衝撃ニュースだったが、終末を意識させるには、小惑星衝突までの猶予が長かった。人々のささやかな勇気が少しずつ重なり合い、世界に希望をともしていく奇跡の連作短編集！未来なき世界で希望を編む人々の物語。

『不等辺五角形』 貫井徳郎著

避暑地の別荘で、事件は起こった。三十歳を間近に控え、久しぶりに顔を揃えた五人の男女。五人の関係は、一夜にしてひとりが被害者に、ひとりが被疑者になる悲劇へ転じた。果たして五人の間には何があったのか。あの夜、なぜ事件は起きたのか。関係者の証言から展開される、息を呑む心理劇の結末は？

『踊れ、愛より痛いほうへ』 向坂くじら著

幼い頃から納得できないことがあると「割れる」アンノは、愛に疑念をいだいていて？

『7人の7年の恋とガチャ』 大前栗生著

裏切り者を、探せ。孤島に集められたのは、16歳から22歳の男女7人。好感度の牢獄、背負わされた物語。一気読み必至の、恋愛リアリティーXミステリー！

